

今週の為替相場見通し (2018年6月25日)

総括表		注	先週の値動き		今週の予想レンジ
			レンジ	終値	
米ドル	(円)		109.55 ~ 110.76	109.98	108.50 ~ 111.00
ユーロ	(ドル)		1.1508 ~ 1.1675	1.1655	1.1500 ~ 1.1800
(1ユーロ=)	(円)		126.68 ~ 128.60	128.21	126.00 ~ 130.00
英ポンド	(ドル)		1.3102 ~ 1.3315	1.3265	1.3100 ~ 1.3350
(1英ポンド=)	(円)	*	144.39 ~ 147.06	145.85	144.50 ~ 147.00
豪ドル	(ドル)		0.7346 ~ 0.7455	0.7439	0.7300 ~ 0.7550
(1豪ドル=)	(円)	*	80.63 ~ 82.47	81.83	80.00 ~ 83.50

(データ) 先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

為替市場第一チーム 緒方 大輔

(1) 今週の予想レンジ: 108.50 ~ 111.00 円

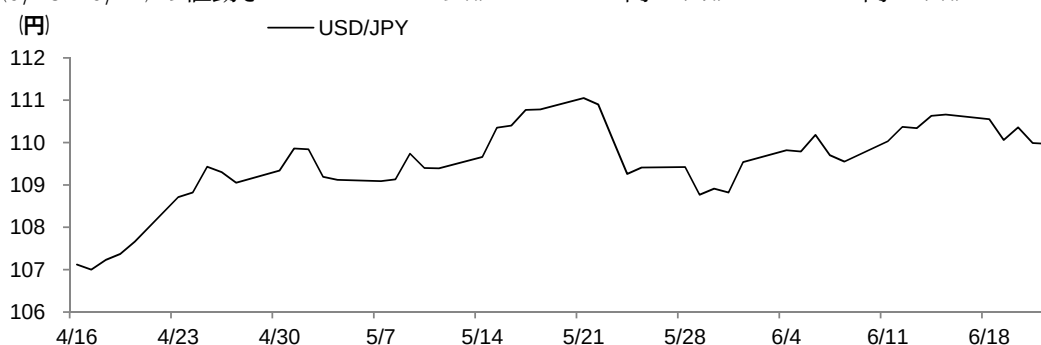
(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のドル/円相場は上下に激しい値動きとなった。週初18日に110円台後半でオープンしたドル/円は、米中の追加関税による貿易摩擦懸念の高まりや大阪北部で発生した地震を背景としたリスクオフの円買いが進み110円台前半まで下落。19日にはトランプ米大統領が2,000億ドル相当の中国製品に10%の追加関税を検討と報じられると、米中貿易摩擦が激化するとの警戒感から一時週安値となる109.55円まで急落した。しかし、ナバロ大統領補佐官の「トランプ大統領は引き続き中国と協議する意思はある」との電話会見を受けドル/円は110円近辺まで買い戻された。20日は「中国が米国の追加関税に対し強力な対抗策を用意」と伝わると110円を割り込む場面も見られたが、シントラで開催中のECBフォーラムでの講演でパウエルFRB理事が「斬新的な利上げを継続する論拠は強い」と述べると110円台を回復。米金利がじりじりと上昇する中、ドル/円は200日移動平均線付近となる110.25円を上抜けると110円台半ばまで値を伸ばした。21日には前日の流れを引き継いだほか、日経平均株価が上昇する中で一時週高値となる110.76円をつけた。だが、米6月フィラデルフィア連銀景況指数が大幅に低下したことからドルの利益確定売りが持ち込まれたことなどから109円台後半まで反落した。22日のドル/円は上値重いながらクロス円の買い戻しに110円台を回復する動きがみられたが、相場全体のドル売りの流れに109円台での越週となった。

今週のドル/円相場については、レンジ内の推移を予想。足元、米中貿易摩擦懸念の高まりや欧州政治リスクネタが目立つものの、タカ派寄りだったFOMCや米株の底堅さからもドル/円はサポートされている状況。米中貿易摩擦懸念に関するヘッドラインに警戒する一方で、イベントも一服し方向感が出づらいう状況下、今週は月末週であることや、他通貨でのドル買いにもやや一服感があることからドル高の調整について警戒が必要と考える。またOPECの結果を受けて先週金曜日コモディティ通貨の買い戻しも見られ、貿易摩擦懸念で売られていたクロス円の買い戻しでドル/円はサポートされる可能性もあるものの、積極的に上値を更新するほどの勢いはないだろう。引き続き米中貿易摩擦懸念のヘッドラインに警戒は必要であるが、米株が底堅い値動きをすればドル/円が大きく値を崩すリスクは限定的と見ており、方向感出にくい中レンジでの推移を予想する。

(3) 先週末までの相場の推移

先週 (6/18~6/22) の値動き: 安値 109.55 円 高値 110.76 円 終値 109.98 円



(資料) ブルームバーグ

2. ユーロ

為替営業第二チーム 菊池 雄太

(1) 今週の予想レンジ: 1.1500 ~ 1.1800 126.00 ~ 130.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週のユーロ/ドル相場はもみ合う展開。週初18日に1.16台前半でオープンしたユーロ/ドルは、ドイツ連立政権が移民・難民問題を巡り対立と報じられたことや、ECBが来年にかけて金利を据え置くとの見方を背景に1.15台半ばまで下落したが、この水準では買い意欲もあり1.16台前半まで反発。19日には一時週高値となる1.1644をつけたが、ECBフォーラムでドラギECB総裁が利上げに慎重な姿勢を示すとユーロ売りが進み1.15台前半まで急落した。その後は1.15台後半まで回復したが、20日はノボニーECB理事が「欧米金利差から対ドルでユーロは下落する展開になっている」と発言すると再度1.15台前半まで値を下げた。しかし、この水準では底堅く1.16近辺まで反発したものの、21日はイタリア議会上下院の財政委員会にいずれもユーロ懐疑派の議員が指名されたこと等を受けて一時2017年7月以来となる1.1508をつけた。その後、イタリア財務相がユーロへのコミットメントを改めて示すと1.16台まで買い戻され、1.1655レベルで越週した。ユーロ/円相場ももみ合う展開。週初18日、128円半ば付近でオープン。19日には、米中貿易摩擦が激化するとの懸念からリスクオフとなり一時週安値となる126.65円まで下落した。しかしその後はやや反発し、127円台から128円台の値動きとなり、128.16円レベルで越週した。

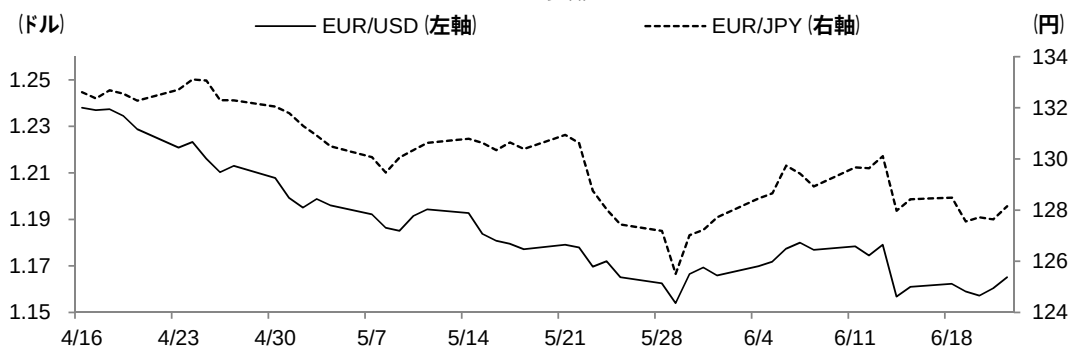
今週のユーロ/ドル相場は、1.15が意識されながらも引き続き上値の重い展開を予想する。ポルトガルのシントラでECBが開催した年次フォーラムで19日、ドラギECB総裁は、「初回利上げ時期の決定について辛抱強い姿勢を維持し、その後の政策調整は段階的に行う」、「ユーロ圏経済は引き続き成長軌道を進んでおり、インフレ率は徐々に目標水準に戻りつつある。しかし経済見通しに不透明性が充満している」等と発言し、利上げを急がない姿勢を強調した。一方、パウエルFRB議長は、「経済が好調で見通しに対するリスクのバランスが取れている中、緩やかな利上げを継続する根拠は依然として強い」とし、欧米の金融政策の差が意識されやすい状況である。また、ドイツの国内政治状況だが、メルケル連立政権に懸念が広がっている。キリスト教民主同盟(CDU)の姉妹政党で、バイエルン州のみを拠点に活動するキリスト教社会同盟(CSU)が難民政策の厳格化を巡って連立政権に不和をもたらし始めており、既にメルケル政権の崩壊や総選挙というワードまで出てきている。難民受け入れ口となっているバイエルン州の議会選挙が今年10月に控えているため、今後再び欧州政治の先行き不透明感の強まりが意識される可能性がありそうである。イタリア不安が広がった場面でも節目の1.15を割ることが出来なかったこともあり、1.15付近では底堅さが見えそうでもあるが、引き続き上値の重い展開が続くようだ。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/18~6/22)の値動き:

(対ドル) 安値 1.1508 高値 1.1675 終値 1.1655

(対円) 安値 126.68 高値 128.60 終値 128.21



(資料) ブルームバーグ

3. 英ポンド

欧州資金部 芹澤 隆博

(1) 今週の予想レンジ: 1.3100 ~ 1.3350 144.50 ~ 147.00 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の英ポンド相場は行ってこいの展開となった。週明けの月曜日こそ静かに始まったものの、トランプ大統領が2000億ドル規模の中国製品に対し10%の追加関税を課すと表明したことからリスクオフの展開。中国株が大きく売り込まれる動きにまずはポンド/円が反応し、146.50円近辺から144.39円まで下落した。欧州勢が参入するとポンド/ドルも下落。1.3250近辺から1.3151まで下落した。水曜日には、議会による「重要な意味を持つ採決」が盛り込まれていたEU離脱修正法案が下院にて否決されたことを好感し、ポンド/ドルは上昇。一時は1.32台を回復するも、翌木曜日にイタリアで上院財政委員長にユーロ懐疑論者のバグナイ議員が、下院予算委員長に同じくユーロ懐疑派のボルギ氏が指名されたことからイタリア債が急落。ユーロ/ドルが急落するのにつられポンド/ドルも週の安値となる1.3102をつけた。その後発表された英中銀 (BOE) の政策金利発表では政策金利は予想通り据え置きだったものの、投票が6対3と前回の7対2からホールデン氏が利上げ支持に転換したことや、バランスシート縮小開始検討の時期を政策金利2%到達時から1.5%に前倒した事を受けポンドクロスが上昇。ポンド円やポンド/ドルは翌日まで買われそれぞれ146.65円、1.3315の高値をつけた。その後、トランプ大統領がEUから輸入の自動車すべてに20%の関税賦課を示唆すると、欧州通貨が下落。ポンド/ドルも高値から反落し、1.32台後半での越週となった。

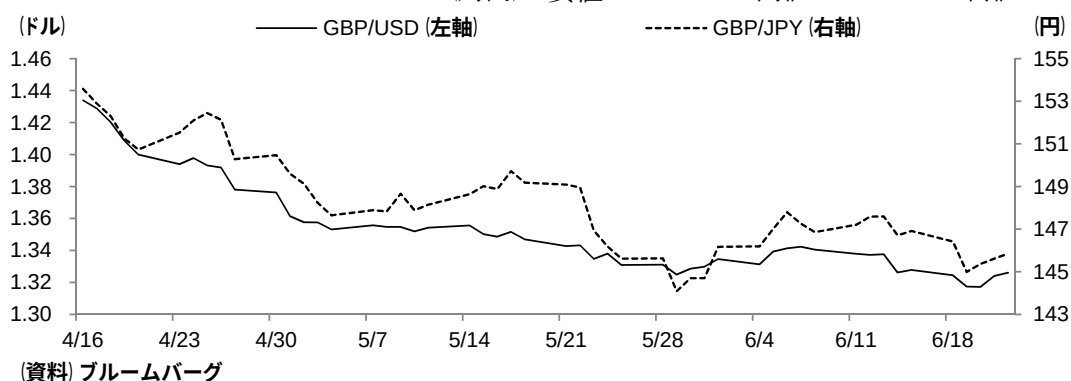
今週の英ポンド相場は神経質ながらも横ばいの展開を予想する。注目のイベントとしては28日 (木) と29日 (金) の日程で行われるEU首脳会議であろう。特にこの6月が期限とされる、英国のEU離脱におけるアイルランドの国境問題が進展するかどうかのポイントとなるであろう。ここで離脱協定の交渉が難航すると、移行期間も不透明になり引き続き不安定な状況が続くと思われる。ただ、市場としては交渉が順調に進むとの期待はしておらず、仮に不調に終わったとしても大きな波乱とはなりにくいと思われる。その証左として、通貨オプション市場における1か月物のアット・ザ・マネー (ATM) の水準は7%前半と落ち着いており、スポット下落の警戒感を表すリスクリバーサル水準も緩んでいることが挙げられる。ポンド以外の要因としては米中の貿易戦争の行方が挙げられる。引き続きトランプ大統領からの発言が続いており、波乱の要因となる恐れがあるものの、米中両政府が全面戦争回避に向けての道筋を探るとの報道もありヘッドラインリスクには注意が必要である。ただ、市場では膠着感が漂っていることもあり、全体的に横ばいの展開となるであろう。

(3) 先週までの相場の推移

先週 (6/18~6/22) の値動き:

(対ドル) 安値 1.3102 高値 1.3315 終値 1.3265

(対円) 安値 144.39 高値 147.06 終値 145.85



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部シドニー室 今村 加奈子

(1) 今週の予想レンジ: 0.7300 ~ 0.7550 80.00 ~ 83.50 円

(2) ポイント [先週の回顧と今週の見通し]

先週の豪ドル相場は米中の貿易摩擦高まりを不安視し、リスク通貨豪ドルは今年最安値0.7346まで下落。18日、豪ドルは0.74半ばで取引始まり、米国の保護貿易政策を受けた貿易摩擦が重しとなり一段の株安を招き、リスク通貨豪ドルは下値を試す展開となった。19日、トランプ大統領は2000億ドル規模の中国製品に対し追加関税10%を課すとの報道は嫌気され豪ドルは0.7400割れとなり、その水準ではしばらく売り買い交錯となった。同日に発表された豪準備銀行(RBA)6月理事会議事録は、「低金利が経済を支援・インフレは当面低水準・GDP伸び率が3%超に加速する予想と一致・賃金の伸び率は低い・公共インフラは経済を支援する見込み」と前回とほぼ同じ内容であった。RBAは強気な豪州経済予想を示す一方、賃金の伸び悩みや高水準の家計債務からしばらく低金利で据置を示唆、それは市場予想と変わらず、豪ドルへの影響は限定的であった。それよりも、市場の焦点である世界的な通商問題に反応敏感であり、中国から米追加関税に対抗する姿勢が示されると、あっさり豪ドルは0.73半ばへ下落した。貿易摩擦を背景にした欧米株安を確認する中、豪ドルは0.7400を挟んだで推移した後、21日には豪ドルは1年ぶりの水準となる安値0.7346まで値を下げた。しかし、0.73半ば~0.73後半では値ごろ感から豪ドル買いも散見され、22日には続落していた株式がプラスに転じたこともあり、先週のオープニングレベルであった0.74半ばへ戻して取引を終えた。先週の豪ドル/円相場は82円半ばから一時80円半ばへ下落した。18日、豪ドル/円は82円半ばでオープン、市場の焦点である世界的な貿易戦争への不安が広がったことで安全資産の円買いが見られ、豪ドル円は81円後半へ値を落とした。19日、豪ドル円への下方圧力は継続し、今年の最安値圏となる80円半ばへ急落した。しかし、その後豪ドルが買い戻されたこともあり81円を固めるような商いが見られ、徐々に値を戻し結局81円80銭近辺へ上昇して引けた。

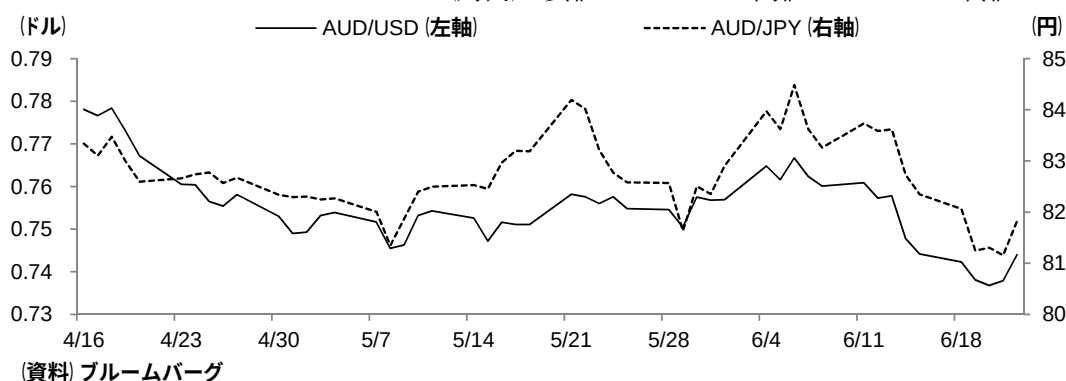
今週の豪ドルは引続き貿易摩擦を材料にして安値圏となる0.73台~0.74台中心の商い、豪ドル円は80円台~83円台を予想。今週、豪州の重要な経済指標の発表はない。市場は、米政府の保護的な通商政策から激化する世界的な貿易摩擦の行方を焦点としていくだろう。欧米の株式中心にボラティティーが高くなり大幅な下落が目立っていることは、リスク通貨豪ドルの上値を重くするだろう。また、先週末ウィーンで開かれた石油輸出機構(OPEC)と非OPECの主要産油国総会で約1年半ぶりに増産が決定されており、今週は豪州輸出品・液化天然ガスのベンチマークとなる原油価格の動きも注視したい。

(3) 先週までの相場の推移

先週(6/18~6/22)の値動き:

(対ドル) 安値 0.7346 高値 0.7455 終値 0.7439

(対円) 安値 80.63 高値 82.47 終値 81.83



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。